



▲「おはなしのんの」の皆さん（平成27年のイベント時）。

物語を想像する力を育む ストーリーテリング おはなしのんの

「絵や写真を見せず、言葉だけで話の内容を伝えること」

薄暗い部屋にローソクを立てることから「おはなしのんの」の物語は始まります。平成20年に設立した「おはなしのんの」は、市内の小中学校などでお話を開催。語り手が本の文章を覚えて話す「ストーリーテリング」という手法を使って、子どもたちに本やお話の楽しさを伝えています。

で、子どもたちの想像力をかき立てられます」とストーリーテリングの魅力を話すのは、小原美恵子さん。県内で語り手指導者として活躍している宇田祥子さんとの出会いから、この魅力に引き込まれ、活動を行ってききました。

「語り手が登場人物を演じたり、文言を加えたりすると子どもの想像を邪魔してしまいます。そのため、私たちはテキストの文章をそのまま語ります」と語り手として大切にしていることを口にします。「ただし、棒読みするのではなく、話を自分の中で熟成させ、命を吹き込んで子どもたちに差し出します」。

小原さんと一緒にこの団体を立ち上げた小林順子さんは、「ストーリーテリングは、自分の頭の中で、物語の世界を描きながら聞くので、みんな最後まで集中して聞いてくれます。言葉だけで伝えられる物語の世界にひたって、十分に楽しむことで、自然に『想像する力』が育まれます。それが読書へとつながると思います」とこの活動の意味を話します。

「このような表彰を受けられて光栄です。私たちの活動を理解し、支援してくださる方々に感謝しています」と二人は声をそろえます。

「私たちは現在、13人の会員で活動しています。お話が好きでストーリーテリングをしてみたいという人がいまだら、一緒にやってみませんか」と、活動を広めるためメンバーを募集しています。

問い合わせはくた図書室
☎ 37-0050

「おはなしのんの」は4月23日、「子供の読書活動優秀実践団体」の文部科学大臣表彰を受けました。これは、子どもの読書活動への意欲を高め、特色ある優れた実践活動を行う団体などを表彰するものです。



▲「子供の読書活動優秀実践団体」の文部科学大臣表彰の表彰状を持つ小原さん（左）と小林さん。

編集後記

▼子どもたちに楽しさが伝わるよう、自分たちも楽しむことを大切に。「おはなしのんの」の皆さん。長い物語だと40分もの覚えている話です。さらに、話すときは聞き手の反応を見て、間を取ったり、しゃべり方を変えたり。柔軟な工夫が「伝わる」ことのポイントだと教わりました（旬）

▼山佐小学校で行われた川遊びを取材。長靴を履いて臨みました。子どもたちの表情を逃すまいと、無我夢中でシャッターを切り、取材を終える頃には、長靴の中まで浸水。帰路に就くまでグワツ、グワツという水と空気が混じりあう感じがなんともいえない、とても懐かしい気持ちになりました（つ）

安来市の人口と世帯数 R2.6.30現在

人口合計 / 38,038人
(男:18,282人 女:19,756人)
世帯数 / 14,406世帯

